

令和6年度 新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会 議事録要旨

日時 令和7年1月24日（金）午後2時から4時

会場 新潟市新津美術館 レクチャールーム

出席者

（委員）	会長	佐藤 靖子	新潟市立内野中学校校長
	副会長	田中 咲子	新潟大学人文学部・教育学部教授
		大竹 岳史	日本放送協会新潟放送局局長
		捧 実穂	雪梁舎美術館理事長
		鈴木 晃	新潟市美術協会参事
		塚田 美紀	世田谷美術館企画調整担当マネージャー
		不動 美里	姫路市立美術館館長
		三保 恵美子	茶道表千家教授
		山浦 健夫	公募委員

（事務局）		高田 章子	新潟市文化スポーツ部長
		前山 裕司	新潟市美術館特任館長
		川瀬 正勝	同 館長
		高橋 努	同 副館長
		高橋 義幸	同 総務係長
		荒井 直美	同 学芸係長（主幹）
		塚野 卓郎	同 学芸員
		高橋 威志	新潟市新津美術館館長
		栢森 文夫	同 主幹
		奥村 真名美	同 係長（学芸員）
		上池 仁子	同 主査（学芸員）
		山岸 亜友美	同 主査（学芸員）
		大野 智世	同 学芸員

次第

- 1 開会挨拶 新潟市文化スポーツ部長 高田 章子
- 2 委員紹介（自己紹介）
- 3 議 事
 - （1）会長、副会長の選任
 - （2）新潟市美術館・新津美術館 令和5年度事業報告（令和6年度事業途中経過報告含む）
 - （3）新潟市美術館・新津美術館 令和7年度事業計画
 - （4）その他
- 4 閉会挨拶 新潟市美術館館長 川瀬 正勝

1. 開会挨拶

(高田部長)

本日は新春のお忙しい中、お集まりいただき大変ありがとうございます。日頃から委員の皆様には、本市の美術館の運営に関し、多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げたい。また今日は大竹委員、不動委員から新しく委員をお引き受けいただき、ありがとうございます。

さて、昨年を振り返ると元日から能登半島地震が発生し、新潟市も大変な被害を受けた。本年に入り、液状化による住宅被害をはじめとして、復旧復興に向けた取り組みを進めている。その一方で明るいニュースもあった。新潟駅のバスターミナルが開業し、駅もリニューアルした。そして県民の悲願であった佐渡島金山の世界遺産登録が実現した。私の担当するスポーツの分野でも、古俣聖選手がパリオリンピックのフェンシング男子エペ団体で銀メダルを獲得し、アルビレックス新潟がJリーグYBCルヴァンカップで準優勝ということがあった。文化芸術に目を向けると、コロナ禍でその活動が制約されて、ようやく盛り上がりを見せてきたところに、また震災が起きて逆風が吹いている。それでも文化芸術は我々の心を癒して明日への希望を与えてくれる必要不可欠なものだと認識し、市民の皆様の活動の機会の確保に努めている。本日はその文化芸術の中核施設となる新潟市美術館そして新潟市新津美術館、二つの館の運営、事業についてご説明させていただく。皆さまからは、それぞれのご知見ご経験、そして利用者の目線で忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。皆さまの意見を踏まえ、これからも魅力ある美術館の運営に努めていきたと考えている。本日はよろしくようお願い申し上げます。

2 委員紹介（自己紹介）

出席委員が自己紹介

3 議 事

(1) 会長、副会長の選任

(三保委員)

佐藤校長先生を推薦したいと思う。副会長については、佐藤校長先生が選任でということで皆様いかがか。

(高橋副館長)

ただいま三保委員から、「会長は佐藤委員、副会長は会長が選任」という発言があったが、まず会長は佐藤委員でよろしいか。よろしければ、拍手でご承認をお願いしたい。→全会一致で承認。

それでは、副会長につきましては会長が選任ということで、佐藤会長、いかがか。

(佐藤会長)

事務局に提案があればお願いしたい。

(高橋副館長)

事務局案としては、佐藤会長と同じく平成28年度より委員を務めていただき、この協議会に精通していらっしゃる田中委員にお願いできればと、ご提案申し上る。皆様よろしいか。→全会一致で承認。

(佐藤会長)

新潟市立内野中学校の佐藤靖子です。平成28年からこの委員を務めさせていただいたという

ことで、あらためて皆様に感謝申し上げます。第7期の会長として務めさせていただくので、皆様ご協力をお願いしたい。

(田中副会長)

只今副会長を拝命した新潟大学の田中です。会長が佐藤先生なので、本当に大船に乗った気分ですが、地元からの委員ということで、佐藤会長を助けて、この協議会が有益な議論が交わされるように、私もできることをしていきたい。

(高橋副館長)

この後の議事の進行は、佐藤会長にお願いします。

(佐藤会長)

この協議会は、新潟市美術館と新津美術館の両館の運営等について助言や意見を行うもの。皆様には意義ある会議となるよう、ご協力をお願いしたい。

(2) 新潟市美術館・新津美術館 令和5年度事業報告(令和6年度事業途中経過報告含む)

(事務局説明)

年報及びパワーポイントの画像に沿って、新潟市美術館の令和5年度の事業報告と参考に令和6年度事業経過報告について事務局より説明。

続いて、年報及びパワーポイントの画像に沿って、新津美術館の令和5年度の事業報告と参考に令和6年度事業経過報告について事務局より説明。

(大竹委員)

一つ教えていただきたい。教育部門のところで、出前授業という形で両美術館で行っていると思うが、学校の選択は手上げ式になっているのか、それとも今年度はこの地域や区でということなのか、参考に教えていただきたい。

(荒井主幹)

両館とも手上げ式となっている。なるべく初めての学校が参加できるような形で選ばせていただいている。

(大竹委員)

弊社でも出前授業みたいものを行っているが、なかなか手を上げてくる学校が少ない。美術館ではいかがか。

(荒井主幹)

新潟市美術館の아트リップでは、熱意のある先生が応募されることが多く、多少偏りがあるというのが正直なところで課題にもなっている。なるべく初めての学校と思って選ぶと、経験者の先生だったり、裾野を広げるためには、例えば今年は秋葉区の学校でやるとか、ある程度強制力を持たないと広がらないかなという悩みを抱えながらやっている。

(奥村係長)

新津美術館も手上げ式という悩みもあるが、長く続けていると先生方は異動があるので、先生が口コミで広げてくれる効果を実感している。先日行った学校も、秋葉区内でこの事業に触れた先生が他区へ異動して広げてくれるということもあるので、そういった効果も感じている。

(川瀬館長)

少し補足させていただく。今説明した通りだが、新潟市美術館も新津美術館も募集をかけてい

て、多くの学校が応募しているのので、そこで先程話のあったように、新津美術館と新潟市美術館で協力し合っているべく偏りがないようにバランスをとりながらやっている。ちなみに件数もかなり多くやっていて、令和5年度の実績で申し訳ないが、新潟市美術館のアートトリップについては小学校6校210人、中学校はその時はたまたま0だった。新津美術館の出前美術館については、小学校8校461人、中学校2校58人で、合計10校で519人が参加した。

(佐藤会長)

学校現場では、春先の小学校や中学校の校長が集まる校長会で美術館からご案内いただいている。その情報が校長でストップしてほしくないが、興味関心がある校長は声掛けをしてくれているので、美術科主任のところで忙しいからとにならないようにしていきたい。また、中学校でも美術教育研究会というものがあり、美術の先生方が集まる会でも美術館事業内容を知っている先生は知っているが、若い先生や講師が把握できずに終わっていることもあると思うので、少しその辺も打ち合わせをさせていただけたらと思う。裾野を広げるのが大事だと思う。

(鈴木委員)

いくつか聞かせていただきたい。マンガに詳しくないが、ゴールデンカムイ展に来たら若い人で溢れていた。これは若い人たちをターゲットにした展覧会かなという感想を持った。販売コーナーも今まで見たこともないくらいたくさん商品が売られていた。それから植物園でアイヌ関連の植物の展示をやっており、美術館と協力、連携していたのかなと感じたがいかがか。

(奥村係長)

今年度の事業だが関心をお寄せいただきありがたい。ゴールデンカムイ展は嬉しい反応で多くの方々からご覧いただいた。当初は大人の女性が多いのかなと思っていたところ、高校生の方も来ていただいた感触を実感している。またグッズの量が豊富であることから、ショップを大きく展開するために市民ギャラリーのスペースを利用した。そのグッズを目当てに来る方も大いに賑わったのではないかと感じている。また近隣の植物園でちょうどアイヌの展示があったが、植物園では全国いろいろな地域をテーマに企画展を開催しており、偶然にも北海道を取り上げ、結果として交流が生まれ、両館のサービスも非常に多くの方からご利用いただいた。

(鈴木委員)

新潟市美術館の遠藤彰子展では作品の大きさに圧倒された。どうやって制作したのだろうと思っていたら、DVDが流れていて、その説明を見て理解できた。ただ、その大きな作品をどうやって運ぶのだろうという疑問が出てきた。大きな作品を3枚並べて展示してあったが、トラックでギリギリ運ぶことができるのがあの大きさなのかと思ったがいかがか。

(荒井主幹)

比較的簡単な梱包でトラックで運搬されてきた。あれ以上大きくなると重量もさることながら、嵩もさらに大きくなってしまいうことで、簡易な姿で運び込まれた。

(鈴木委員)

最後に感想だが、新津美術館のシャガール展も見せていただいたが、非常に混んでいて、年配の方が多かったような気がした。公立の美術館では珍しく会場に音楽が流れて面白いと感じた。音楽を流す予定や計画は前からあったものか。

(奥村係長)

ちょうど「こどもタイム」の時にご来館いただいたのではないかと。新津美術館では親子で会話

をしながら展示を楽しんでいただけるように、会場に音楽を流す「こどもタイム」を開催しており、その際にはシャガール展と関わりを持てるような音楽を流していたので、その世界観に浸りながら展示をお楽しみいただけたのかなと思う。

(佐藤会長)

こどもタイムは毎回行っているわけではなくて、リーフレットを拝見すると、第1第3の木曜日、日曜日の午前10時から午後1時という時間帯となっている。シャガールだったらシャガールらしい音楽を意識されて流されているのか。

(奥村係長)

担当がその展覧会に合うような曲をセレクトしており、今年度の話になってしまい恐縮だが、今開催中の企画展「共鳴あるいは不協和音展」では、展覧会にゆかりのある出展作家さんの演奏を流している。

(佐藤会長)

美術と音楽のコラボということで工夫されているということですね。

(田中副会長)

新潟市美術館の二つの展示についてお伺いというか意見をさせてほしい。まず富井大裕展の時に大学に展示作業補助の募集があり、学生たちには非常にいい経験となったようでお礼申し上げます。なかなか思ったほどの人数が集まらなかったかもしれないが、ぜひ今後もそういったお声掛けを頂けると幸いに思う。これに関して、そこで経験した学生さんたちのその後のことや、あるいは他の展覧会でもそういったことをしたことがあるとか、予定があったら教えてほしい。

(荒井主幹)

その節はご協力大変感謝申し上げます。新潟大学から2名、長岡造形大学から5名、入れ代わり立ち代わりという形になったが、主に美術を実技で学んでいらっしゃる学生の皆さんからお手伝いをいただいた。大変ありがたかった。少し説明をすると、画鋸をひたすら壁に刺すというミッションがあり、先ほど富井大裕さんは物があるがままの姿で反復しながら制作する作家と説明したが、画鋸をひたすら決められた方眼上に壁に刺すというこのことをやっていた。今後のそのような予定ということだが、なかなか現代美術のジャンルといっても扱いによっては学芸員でしか扱うことが許されない作品、例えば他館の所蔵品や、当館のものもそうだが、実際の展示に携わるというのはデリケートな話にはなってくると思う。これまでもコロナで流れてしまっただが、長沢明展の時に作家から学生の補助が欲しいと言われた展覧会もあったので、毎年というわけにはいかないが、折を見てそのような機会があったら、いち早くご相談に行きたいと思っている。今回も作業としては単純な作業だったが、作家本人と交流ができるとか、仲間同士で違う大学の学生と交流できたということで、やはり参加してくださった学生の皆さんは喜んでくださり、こちらとしてもありがたかったし、今後も縁があれば続けていきたいと思っている。

(田中副会長)

もう一つ、少女たち展では、会場の最後に加えられた新潟会場独自の古町芸妓のコンテストの展示がすごく面白かった。巡回展であっても、それをチャンスと捉えて、こちらの所蔵品や学芸員の方々のアイデアを発展させる機会となっていて素晴らしいことだと思った。あの調査の結果を何かの形でパンフレットに残すとか、そういったことに繋がったのか、それとも展示だけで終わりになってしまったのか。

(荒井主幹)

会期中、部分的に担当学芸員が書いたテキストやパネルとしても出しているものを二次元コードで見ただけのように発信をしていた。担当学芸員もまとめたものを出したいと言っていたが、まだ完成はしていなかったのではないかと思う。確かに花街の文化研究のことなど、こうした形で展示されているのは、他のお客様にも興味を持っていただけたところでもあるので、何か継続ができたらいいなと思っている。実際、その時にキュレーションを外部の方をお願いしたが、テキストを書いたり花街等での活動もなさっている方なので、また協働ができればいいのかなと思っている。ご意見として参考にさせていただきたい。

(田中副会長)

あの展示は今後にもつながる大事な研究成果だと思う。関係者以外の人も成果をいつでも参照できるような形にしておく、その文化の発展につながるように思う。

(荒井主幹)

少し補足をさせていただく。新潟美人総選挙の作品は新潟市歴史博物館みなとぴあの所蔵で、今回展示したことで少し情報の更新もできたので、その辺を互いに共有しながらやれるとよいと考えている。

(3) 新潟市美術館・新津美術館 令和7年度事業計画

資料2、3、パワーポイントの画像に沿って、新潟市美術館の令和7年度の事業計画について事務局より説明。続いて、資料4、5、7、パワーポイントの画像に沿って、新津美術館の令和6年度の事業計画について事務局より説明。最後に資料6に沿って、両館の使用料改定について事務局より説明。

(塚田委員)

新潟市美術館の改修工事明けの企画展がタイトルも含めてどれもとても面白そうで、次の協議会は路傍小芸術展を見れる時期に設定していただけたらと思った。質問だが、8月30日から再開して開館40周年をやりたいということだが、その時に建物のあちこちが綺麗になるということであちこちに作品を飾ると伺ったが、その前のまっさらな状態、展示も全く何もしてない状態の美術館、展示室含めロビーとか、そういったものを見せる計画はないか。

(前山特任館長)

どこまで綺麗になるかということでは、お客さんから分かるのは、客用エレベーターぐらいで、劣化した外壁タイルを張り替えたりはするが、展示室が変わるわけではない。照明のLED化はあるが、最初から中を見せようという発想はなかった。それからいつオープンできるか分からない状態が凄く長く続いていた。本当はもっと早く開けたかったが、工事の関係でそうは行かなかった。最初のリニューアルオープンの展覧会の会期がとても短いので、そこは一日でも長くやりたいという思いはある。

(塚田委員)

リニューアルと言っても、なかなかお客さんが見てわかるようなリニューアルができないことはもちろん存じていて、ただ教育普及事業みたいな形で、そういったものがひょっとしたらあるのかなとお聞きした。一般のお客さんは何もない状態を意外と喜んで見てくださったりするところもあるので、おっしゃるとおり最初の「ほぼせんてんてん、」の期間が21日しかないというの

は、展示したらすぐ終わってしまう感じで本当にもったいないが、これを見ると確かにその前に何かやるというそれどころじゃないというのはよく理解できた。いずれにしても、休館明けを楽しみにしている。

(山浦委員)

少し感想というか、一つは意見もあるが、新津美術館で笹岡一展があり、この展覧会を見て感動した。同じ作品を新津美術館の開館の時も見ているし、何回か拝見しているが、見せ方が上手かったのか、いろんな細かいところまで気配りをしてやっているというか、学芸員さんの熱心さ、それからこの館が笹岡一さんのことを大事にしていますというのがすごく伝わってきた展覧会で本当にありがたかった。それから笹岡一さんの奥さんが画家で、できればもっと奥さんの作品も借りてみたいとそんなことを思った。それから去年の協議会でもお話ししたが、私の気持ちとしては、新津美術館と新潟市美術館の所蔵品が5000点以上になるので、とにかくそれらの作品を見せてほしい。美術館は所蔵品によるというのがちょっと古い言葉かもしれないが、そういうふうに使われているので、ぜひ見せて欲しいと思った。それから最後に三富（與一）さんという岩室の方で、鯉の絵を描いたり、結構早いころの洋画家なのだが、岩室の公民館で見てその後どうなっているのだろうと思っていたら、いつのまにかと言ったら失礼になるが新津美術館に収蔵されていた。地元の画家にとにかく手を差し伸べて欲しい。黙っていれば忘れ去られていくしかないので、主に洋画家になると思うが、新潟で活動した画家、それから新潟出身で中央に出て行った方、それらを含めて、新津美術館、新潟市美術館、地方にある美術館の一つの使命だと思うので、そういう作家を掘り起こしていただきたいと思う。

(捧委員)

新潟市美術館が1985年に開館して40周年ということでコレクション展を企画されたと思うが、40周年など節目の時はこれまでの歩みを見ていただくことは、地味かもしれないがすごく重要で良い企画だと思った。どの作品を展示するかというのは学芸員の腕の見せ所だと思うので、本当に楽しみに拝見したいと思っている。質問になるが、新津美術館は絵本の展覧会を多く開催しているという印象があり、どうしてなのかと素朴に思った。先程今の展覧会を拝見していて、この館の設立のコンセプトを読んだら、最初はコレクションを持たずに市民のためにいろいろな開かれた企画をするというのが新潟市の市長さんと創立の館長さんとの想いを知り、すごく感動した。時々イベント等も開催されていると思うが、ちょっと少ない気がする。もっとこの素晴らしい建物を利用した企画、他館とは差別化したようなものを計画していくのもいいのかなと思った。去年は、新潟市美術館の「もしも猫展」、「遠藤彰子展」を拝見したが、遠藤先生の展覧会は本当に感動した。武蔵野美術大学でも拝見したが、市美の展示にはすごく圧倒された。新潟でできない展覧会を持ってきていただき感謝している。新津美術館の「シャガール展」も楽しみにしていて、うちの館で所蔵している作品もたくさんあったが、キャプションの内容が、研究されていたので、すごく楽しんで見ていた。「ホキ美術館展」も見たが、どういう経緯で新潟に持ってこられたのかなと思った。うちの美術館でも公募展を実施しており、共通点があるため、開催の経緯を知りたいと思った。

(奥村係長)

まず絵本原画については、今は新潟市と合併して新潟市新津美術館となっているが、その前身が新津市美術館で、笹岡一のコレクションを持っている新津市美術館でありながらも、その活

動の中では絵本原画の展示も力を入れていた。当時からボランティア活動にも力を入れており、解説ボランティアや絵本の読み聞かせボランティアが始まるルーツとなっている絵本原画の展示があった。そして今でも新津美術館でのボランティアによる絵本の読み聞かせを普及事業として活動の一つとして挙げており、背景にはそういったボランティアの方々の活動の歴史があり、そこリンクさせた絵本原画を展示する新津美術館として親しまれてきた。絵本は親子で来館しやすいところもあり、親子のみならず絵本が好きな大人の方もいらっしゃるし、いろいろな方に幅広く親しみやすくご覧いただける展示として意識している点がある。

ホキ美術館展は多くの写実絵画を所蔵する専門の美術館として千葉市にあるが、新潟から行こうとすると非常に距離がある。ホキ美術館でも写実絵画を展示しているが、作品がまとまったから入れ替えるというのがあるのか、巡回展を回しているという情報があるなかで、メディアの方からも提案があり、実行委員会形式で行うことになった。こちらも丁度そういった絵画の展示、タイミングだったり、バランスを見てちょうど良い機会だったので、新潟からなかなか行けないという方に楽しんでいただけたらいいと思い、検討して開催させていただいた。

(三保委員)

前にお願ひした新津美術館の2階のエレベーターを降りたところに矢印で「展示室はこちら」という表示していただいて、ありがとうございます。来たことのない人にとってはとても不安があるので、いつも来たことのない人の立場に立って運営していただければと思う。

先ほどのお話で、そういえば新潟市美術館は今何もないんだな、何も展示してないんだなと、それであれば逆手にとって1週間ぐらい何もない美術館見に来ませんかというのはどうか。それで市民の方々がこういうところにこんなのを飾りたいという希望をボードにペタペタ貼ってもらいと、希望の結果も分かるかもしれないし面白い。何にもない美術館へは誰も行ったことがないので、3日でも1日でもいいからいかがか。

それでやはり美術館というとハードルが高いというのがあると思う。あとでお見せするが、京都国立博物館に新しいマスコットができていますのご存知か。「トラりん」といってあまり可愛くないけれども、実際に着ぐるみを見たらかわいくて、握手をしたり一緒に写真を撮ったりした。人気者になれるかしらと置いていたら、二年経った今でもマスコットになっている。それで新潟市美術館も新津美術館も、持っている作品の中でこれを売りたいという時に、マスコットにできそうなものはないか。学芸員さんのセンスでマスコットにして、そして着ぐるみにして、例えば、日曜日にその辺をウロウロしていると、子どもたちがまず寄って来て、子どもが美術館に親しめるのではないかと思う。後で「トラりん」の写真をお見せするが、ネットに出て人気者になったんだと思う。尾形光琳の竹虎の図のようなかわいい子がいたら、新潟でもマスコットをぜひ作って欲しいと思った。

(佐藤会長)

私も何もない美術館をぜひ見たいと思った。

(前山特任館長)

前にいた美術館で経験があるが、何もない美術館はお客さんに喜んでもらえる。展示室の中の1/3ぐらいのスペースに何も展示しないで、新潟市美術館にもあるが可動壁といって動く壁を動かさずというのをやり、ガラスケースの中に入れますという展示をやった。一般のお客さんはガラスケースの中に入っているお客さんを見て喜んで、大変うけたが、工事中は危ないので無理

だと思ふ。

(三保委員)

できた後の三日くらい。一日でも良いと思ふが。

(前山特任館長)

参考にさせていただく。

(荒井主幹)

良いアイデアだと思ふが、少し補足をさせていただきたい。2015年の10年前の改修工事の時には工事期間に余裕があった。3月に工事が終わって7月にリニューアルオープンだったので、何もないところを見ていただくということで、誰でもその日一日参加OKにするとやはり大変なので公募抽選限定ツアーとして、その時は可動壁は動かさなかったが、お披露目とこんなふうに変りましたということを少し真面目な感じで行い喜ばれた。ただ今回は工期が8月の前半に引き渡されるかどうかという瀬戸際で、展覧会を準備する期間もきちきちになってしまった。今後もどうなるかわからなが、余裕があれば公募をかけ見ていただきたいところだが、その辺は工事の様子を見ながら検討中となっている。

(佐藤会長)

できたらという要望で、今、美術館に限らず、ゆるキャラやキャラクターのグッズが結構売れている。先々週、汐留のパナソニック美術館でル・コルビュジエ展へ行ったら、コルビュジエ自身がキャラクターになっていた。例えば新潟市美術館で前川國男さんの何かをキャラクターにするといったことも考えられる。今、建築ブームで建築好きな若者がそのような建物を巡り、SNSでバズるとすぐ人が殺到する。もしよろしければということで提案させていただく。

(不動委員)

これまでの取り組みとこれからの取り組みについての熱い発表を伺い、大変感銘を受けた。感想になるが、本当に両館の学芸の皆さんがコレクションのことを大切に思い、展覧会に関しても本当に綿密に丁寧を作り、タイトルにしても工夫して組んでいることは大変伝わってきた。そういう中で、せっかくなので二つ質問をしたい。休館というのは美術館にとってめったにない貴重な期間ということが言える。その期間に外からは分からないと思ふが職員の皆さんも大変忙しい思いをされるはずで、休館期間だからこそ、こういうことに力を入れたり、あるいはこんなことで忙しいということがあれば紹介いただきたい。もう一つ、両館共にボランティアさんが大変熱心に活動されている様子が伺えた。ボランティア活動はとても重要な館の活動だと思ふので、それぞれの館で何か活動に関しての指針や方針があれば聞かせていただきたい。

(荒井主幹)

休館中の苦労話ということでは大変なことだらけだった。まずは先ほど事業計画でも話したが、この休館期間を利用して両館挙げてやらなければならない事として、所蔵品のデジタルデータベースを公開するという大きな目標がある。現在、データベースと言えないようなカードだったり、ファイルメーカーで作ったデータだったり、作品の画像やタイトル、作家、制作年といった基本情報をインターネットで検索できるようにしつつ、作品管理の面でも貸出などの記録を入力できるようなデータベースを整備するという事で、他館でも大変利用の多い早稲田システムさんのものを使って準備をしている。新潟市美術館では膨大な作業量となっているが、作品の写真を撮ったり、細かい文字の訂正をしたり、現在作業を進めている。あとはデータベースのように後

で結果が出る形ではない仕事が割と錯綜しており、収蔵庫の LED 化の工事では、空調が止まる前に一時的に常設展示室に作品を移動して、LED の工事をして、また戻すということを行った。終わってみれば照明が LED になっただけだが、作品を安全にかつ混乱なく移動して期限内に元に戻すということは結構な荒技で、その間に写真を撮っていない作品の撮影も兼ねて行ったので、それが去年のハイライトだった。あとは作品以外のことになるが、やはり開館 40 年となると、例えば展示台の処分や、展覧会にまつわる付随資料は、当時はほぼ紙で残していたので、それらのチェックと残すものは残す、この辺で少し見切りをつけるものは見切りをつけ、次の 10 年、20 年に備えて保管場所を空けるというのも、一つの大きなミッションとしている。それは着々と片付いてるとは言い難いが、合間を見ながら空調の効かない寒いところで日と時間を決めてやろうとしている。学校への出前では、いつもは年度初めに募集をして学校を決めて応えているところを、随時受け付け、随時行きますというシステムで教育普及プログラムを行っている。意外にパラパラと来てパラパラと行くというのが多発しているので、そちらにも追われながら館内で準備している。ボランティアについては、新潟市美術館では開館後 10 年遅れで始まったので、30 年の活動歴がある美術館協力会という団体がある。100 人前後のメンバーがいて、友の会に似ているが、あえて協力会と言っており、資料整理をしたり、教育普及プログラムの準備をしたり、広報活動をしてもらったり、あとは常設展をやっているときは解説をやったり、それぞれのチームで活動しているが、基本的には協力会の自発的な動きを美術館がサポートするようなやり方で運営をしている。

(奥村係長)

工事については、新津美術館はまだ具体的に細かなところが決まっていないので、新潟市美術館の話聞きながらひたすら備えている。備えつつも想定されることとして、工事の際に足場を組めるよう大掛かりな片付けが想定されているので、できる範囲でそれを進めている。パズルのようにいろいろな物を動かしながら、これをどうしようかというのを考えている日々で、工事業者が決まるなど具体化してきたら、実際の動きが見えてくると思う。来年度になるが工事期間中、デジタルデータベースの整備も進めなければいけない部分だと思っている。もちろん来年度の作業に向けて情報整理は進めているが、工事と並行して腰を据えて行える休館期間に、学芸が行う業務の一つ、大事なものであると受け止めている。ボランティアについては、新津美術館では単年度更新のボランティアとして募集しているが、来年度は工事があるので募集を見合わせる。様々なイベントのお手伝いや読み聞かせでは主役となって活躍いただいている。ただ前に出るのはちょっとという方には発送作業などの事務的なお手伝いをさせていただいており、ボランティアの方が負担にならない形で、でも楽しみながらも美術館をサポートいただける活動を心がけている。

(4) その他

(三保委員)

今、新潟市美術館は工事で休館しているが、こんなに学芸員が仕事を頑張っているのだから、新しい美術館を楽しみにしてねと広報課の市報の番組に売り込んだらどうか。放送するタイミングは計らないとだめだと思うが、外に向けて PR することが大事だと思う。

(川瀬館長)

おっしゃる通りで、私が美術館に来た時に、美術館って暇でしょとよく言われて、その時に私

が答えるのは、白鳥は優雅に泳いでいるが、実は水面下では一生懸命水を掻いているんですよと言っている。実際に休館する前に広報課が市報やテレビで特集を組んでくれて、そういったのを出している。また機会があればどんどんPRして行きたいと思う。

(三保委員)

オープンが近くなったら、乞うご期待みたいな形でねじ込んでいただきたい。

(川瀬館長)

できるかどうか分からないが、積極的に声を掛けていきたい。

(山浦委員)

新潟市美術館の協力会に解説部があり活動されていると思う。作品の脇に解説部さんが書いた解説文が貼ってあったり、ご本人が一押し作品の前に立ってお話をされるというのを聞いているが、あまり頻繁にやってるように思えなくて、勉強された以上はやはり発表するというのが大事だと思う。発表でこんなこと言ったら、世間の人びびっくりするのではないかと、そんなことは全くないわけで、もっと積極的にやれば良いと思うが、そういうことを館としてはどう考えられているのか意見を聞かせていただきたい。

(荒井主幹)

逆質問になるが、勉強された成果を解説部の皆さんが美術館ではなく他の場所でということか。

(山浦委員)

美術館で例えばチャイムを鳴らして2時から解説部の人が解説しますとか、そういう機会があれば、また本人の勉強になるし、やりがいにもなる。今、東京の美術館では司会を入れて突っ込んで説明している。そういうことが大事なのかなと思う。

(荒井主幹)

解説部の皆さんからは、コレクション展の展示作品についてそれぞれ調べていただき、原則3週目の日曜日の午前中に当番を決めて行っている。それに備えて、その前の週くらいに解説部のメンバーが集まって勉強会をやっており、リハーサルという形でこんな感じで話そうと思う、みんな聞いてみてという感じでやったり、コレクション展を担当した学芸員が同席して質問を受けたりということで、互いに研鑽を積んでいる。最近、あまり見ないとおっしゃるのは、実は解説部のメンバーの中でも、家庭の事情などでなかなか当番をやれないということでできなかったときもあったので、それで最近やってないなと思われたのではないかなと思う。メンバーに入ってもまだ私がするほどではないとおっしゃる方もいるので、こちらも恐れずやってみてと応援しながら、ただ強制ではなく、ボランティアという活動の中なので、みんなが楽しみながら長く続けられることを大事にしながら、時期が来たら背中押してあげるといって見守っている。

(佐藤会長)

毎回新潟駅の話をしているが、新潟駅がリニューアルされ、インフォメーションセンターにデジタル的ないろいろなものがある。インフォメーションとしてお金がかかるのかもしれないが、そこに広告を出したり、観光客の方などがどこ行こうかと調べている時に、美術館情報があるといいないつも思っていたので、ぜひ検討いただきたいと思う。

4 閉会挨拶

(川瀬館長)

本日は非常にお忙しい中、皆様から貴重なご意見、そしてさまざまご提案、本当に参考になる、ぜひやりたいなというご提案をいただき、本当にありがとうございました。皆様からは改めて美術館に対する愛といいますか、熱い想いというのを感じた。私たちも一生懸命やっていきたいと思う。今年は巳年なので、蛇が脱皮するが如く、いろいろな環境の変化に柔軟に対応して地道に積み重ねていきたいと思っている。また来年もこの協議会を行うので、その時にいい報告ができるように頑張りたいと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。どうも本日はありがとうございました。